櫛田健児氏セミナー

シリコンバレーの本質と日本の底力と課題に迫る:

アルゴリズム革命から見る Fintech, IoT, Cloud Computing, Biotech

Q&A

【サマリー】

日 時 ：2016 年 1 月 25 日（月）10：00～12：00

会 場 ：新丸ビルコンファレンススクエア Room 901

Copyright©2015 CIGS. All rights reserved.

質疑応答

栗原氏（キヤノングローバル戦略研究所）：櫛田氏とは 15 年ほど前、まだ日本がまったくオープンイノベーションなどに関心がなかった頃、お目にかかって以来である。今日のお話を伺い、私は上海でウーバーを経験しているため、日本にもいいところを取り込んでいきたいと思っている。では、会場の皆様からご質問をどうぞ。

質問者 1：AI（人工知能）に関するシリコンバレーの動きについて、うかがいたい。

質問者 2：私自分、シリコンバレー、イスラエル、深圳（中国）などに行って感じることとして、今はシリコンバレーが中心であっても、自動運転ではエルサレム、ドローンは深圳など、これ以降もシリコンバレーが中心であり続けるとは思いにくい。その点について、どのようにお考えか。

質問者 3：ウーバーや Airbnb は、交通渋滞などシリコンバレーの地元のニーズから生まれたにも関わらず、中国やニューヨークなど世界中の都市で利用可能なサービスになっていることがすごいと思う。一方、日本では i モードの例をみても、日本は発明して国内向けに最適化するのは得意でも、世界中に売り出していくのはあまり得意でないように思う。こうしたシリコンバレーと日本のビジネスモデルの差異は、どのような点にあるとお考えか。

櫛田氏：AI に関しては、シリコンバレーでももちろん盛り上がっている。例えば、製造ではインダストリー4.0 が日本でもよく言われるが、そこにはマシンラーニング、ディープラーニングも含まれている。グーグルの将来像というのは、なんでも全自動の世界である。そのためには大量の実験とマシンラーニングが必要とされる。基本的にあらゆる領域で、AI、ディープラーニングによってこういうことができるのではないかという研究が進められ、スタートアップも買われている。

シリコンバレーが今後も中心であり続けるかどうかというのは、とてもいい質問である。そもそも何の中心かを考えたときに、VC 投資の中心地には急成長できる企業が続々と来るはずで、そういう急成長の企業を買いたいところも、どんどんそこへ行くはずである。それは今のところ、シリコンバレーだと思う。ドローンを設計し、多少のシステムをやるメーカーは深圳にも多いが、では、そのドローンを何百機も使って制御しよう、デリバリーといった産業用に使おうというのはグーグル、アップル、アマゾンであり、そうなればシリコンバレーに来ることになる。

VC ファンディングを中心とした経済圏は、どんどんシリコンバレーに吸い寄せられていくため、ハイエンドのところはまだシリコンバレー中心になっていくと思う。今はバブル気

Copyright©2015 CIGS. All rights reserved.

味のため、少しはじけるはずである。しかし、はじけたときこそ真のプレーヤーが残る。日本からどうやって活用しようかと思った場合は、泡のはじけたタイミングがベストである。

日本は、国内の最適化がうまくても世界中に売り出せないということについて、私が一番思うのは、外から見て「これはすごいよ」というものでも、日本国内では「そこですか、すごいのは」という食い違いがある。日本国内では評価され、「これがすごいでしょう」というところではなく、海外から見て「いや、ここがすごいのだ」というものを発見してもらえるメカニズムがない。

先日、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）のプロジェクトでピッチコンテストが行われ、日本からピッチイベントの勝ち組をシリコンバレーに連れて行くと、ピッチのやり方もほぼ逆で、ものすごく違和感がある。そこで、すでに一度自分の会社を売って億万長者になり、知的刺激を求めている人たちを日本へ連れてきて話を聞いてもらうと、彼らは、これは面白いと言う。やはりプレゼンの仕方は逆だけれども、いい技術がいろいろあると。最優先テクノロジーベースのもので、これからまたフォローアップしたいのもあるし、引き続きメンタリングをやりたい。今まで思っていた日本、大企業のみがいて閉鎖的なイメージとは大きく違うと目を丸くして戻って行った。私も最近発見したことであるが、このように、すぐにリターンを得なければならない話に投資家は来ないが、そういう層を上手に使えば、架け橋はもっと作れるように思う。

栗原氏：簡単に補足すると、AI に関しては、昨年 12 月に Centre for the Future of Intelligence がオックスフォード大学に開設され、シリコンバレーとつながっている。私は、どちらかというと日本がつながっていないことが心配である。またシリコンバレーのリーディングロールに関しては、ハーバードビジネススクールの Josh Lerner が The Globalization of Angel Investments: Evidence across Countries.という論文を発表し、本当にシリコンバレー以外のところができるのかどうかを検証しているところである。

面白いアイデアというと、ノーベル賞も素晴らしいが、ハーバードでやっているイグノーベル賞は日本人がものすごく受賞している。そういう意味で言うと、イグノーブルのかたちであっても受けるのは事実のため、反対の成績の人も連れて行くと世界で受けるかもしれない。

質問者 4：インターネットもドローンも元は軍の開発である。こういう時代になって、アメリカで次に軍から出てくるものはあるのだろうか。また、私は妻が毎朝作ってくれる卵焼きを食べ、「君のこの仕事は AI がいくら発達してもなくならないよ」と言っている。そういえば、ホテルに行っても卵焼きは人が作っている。やはりこれは永遠になくならないと思う。

Copyright©2015 CIGS. All rights reserved.

質問者 5：伝統と現代の融合に関連して、日本人は「和をもって尊しとなす」国民のため、秩序を壊されるのは嫌だと思う。そこで日本人なりに和をもって尊しとしながらも、破壊的で新たなイノベーションを起こしていく文化を作れるのが日本流のような気がする。最後に、シリコンバレーでは礼儀作法は大事なのかどうかを伺いたい。

質問者 6:テレビ局のスタジオ機材を作っている。今、テレビの高精彩化が進む一方、YouTube のように一般の人々が動画を撮って楽しんでおり、そういうハイテクとはいえないものがある中で、どう進めていくべきかという漠然とした課題がある。また、ロボット化というピンポイントの課題も存在する。そこで、シリコンバレーの世界で歓迎されるのは、漠然としたテーマとピンポイントのテーマのどちらだろうか。

櫛田氏：おっしゃるようにインターネットやドローンも軍発であり、それをビジネスとしていろいろな活動のプラットフォームに仕上げたのが民間 VC である。そのためリードユーザー、リードバイヤーとしての方向性を定めるものとして、軍の影響は大きいと思っている。その中で現在、やはり AI が注目されている。軍に大量にいる勉強が得意でない人たちに効率よくいろいろな能力を与えるためのサービスなど、教育に応用されることも考えられる。また日本でサイバーダインがやっているように、機械を人に装着するロボティクスの方向にも動きがある。

卵焼きに関しては、やはり人間活動のところに特化して、どのようにそこでバリューを与えるかが重要である。ディスラクションを起こしながら、スタビリティを保つ北欧のモデルがいいと思う。北欧は小さいが、やり方にヒントがある。

シリコンバレーの礼儀は、独特のものがあると思う。短期間のうちに、どういう信頼関係を築けるかというのも礼儀作法のうちではないか。また、表敬訪問は 100 パーセント嫌われる。日本からシリコンバレーへ視察に行き、まずは表敬訪問でイロン・マスクに会いたいというのは無理。ではグーグルの、といっても無理である。せめて具体的な投資案件が必要であろう。日本国内で表敬訪問する場合は裏にそれなりのロジックがあり、何らかの関係を作ろうとするのに、なぜかシリコンバレーへ行くと、その裏にある何かがすっぽり抜け落ちて、本当の表敬訪問だけになってしまう。向こうの人にしてみれば、どんどん来るのだけども何も起こらない。しかも基礎的なことを聞いてくるため、まったく意味がない。礼儀作法の意味でも、シリコンバレーに行くときは本気で行きましょうというところである。

テレビの映像に関する話は重要なポイントで、思い切りピンポイントから行ったほうがいいと思う。大枠から行ってしまうと、「それで、我々にとっては何の意味があるのか」と言われるので、ピンポイントから行って、そこから大枠に広げたほうがいい。「とりあえず大

Copyright©2015 CIGS. All rights reserved.

枠で情報交換したい」では、間違いなく無理であろう。

栗原氏：北欧型の話があったが、コロンビア大学のスティグリッツ教授も、この北欧型について素晴らしいと言っている。一方、MIT のアセモグル教授は、いや、アメリカのように規模の経済を背景にしてやればいいのだと言っている。その辺の研究も私たちは行っており、皆様と一緒に考えていきたいと思っている。

（了）

Copyright©2015 CIGS. All rights reserved.